

互いに愛し合いなさい

ヨハネによる福音書 13:31-33a, 34-35

さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。『わたしが行く所にあなたたちは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言うておく。あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

説教

<新しい掟> ヨハネ福音書

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。 ヨハネ 13:34

<律法（古い掟）> レビ記

復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。 レビ記 19:18

イエスが言われた「互いに愛し合いなさい」とレビ記に示されている「隣人愛」の違いはどこにあるのでしょうか？あんまり違いはない、同じことじゃないの、おなじことを言い換えているだけのようにも思えます。

キリスト教では神の言葉を律法として理解していた時代を旧約と呼びます。イエス・キリストのことばによる支配の時代を新約といいます。また、イエスのことばは律法とはいわず掟といい、キリストの約束として解釈することが多いようです。極端な言い方になりますがキリスト教の旧新の違いを「律

法か、イエスの掟か」「法による支配なのか、御子キリストによる支配なのか」と言い換えることもできます。

ところで、律法の本質は禁止にあります。これしちやだめ、あれしちやだめとことばで示すことで法、律法は成り立ちます。

復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。レビ記 19章 18節
福音の本質は薦めともいえます。これしましょう、あれしましょうとイエスのお薦めが福音です。

互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。ヨハネ 13章 34節

「復讐してはならない」この禁止の時代は減点法の時代、一方で「互いに愛し合いなさい」という薦めの時代は加点法の時代といえます。

減点法の律法に従う旧約では復讐しなくても点数は増えず、また人を恨まなくても点数は増えません。加点法の福音時代の新約では互いに愛し合えばプラス1点、復讐しなければ更にもう1点です。逆に隣人愛に欠けていれば旧約基準ではマイナス1点ですが、新約基準では加点がないだけでマイナス1点とはなりません。減点法より加点法のほうが気が楽です。減点ばかり気にしていると「人様に迷惑だけはかけまい」という思いになりがちです。でも1点でも点を稼ごうという気持ちになれば「一日一回、人には親切」と前向きな気持ちになれそうです。

やろうとしたけれど今日は親切になれなかった、そこをちゃんと見てくださる、それを覚えていてくださる憐れみに満ちた神、そしてイエス様がいることをわたしたちは知っています。もちろんできないことを誇ることはできません。でも10回きたから合格とは神様はいわない、イエス様はできの悪いわたしたちでも愛していてくださいます。きょうのみことばはこうわたしたちに語りかけてくださいます。

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。
主の祝福がありますように。
